

0072

清輝艦

四十九

不及候覽
大官

艦政局

参海部

普三七一
三月廿日

官房記録

艦政局長
仁真

横鎮三第

四九三

號ノ三

本宿

清標甲

一二

號

別紙進達候也

明治二十年三月十日

横須賀鎮守府長官子爵中牟田倉之助
海軍次官子爵樺山資紀殿

横須賀鎮守府
海軍省

海軍省

五廿

古事類 四十一

航海の記述

高航の河指を記す。高航の記述は、航海の記述に
記す。高航の記述は、航海の記述に記す。高航の記述は、
航海の記述に記す。高航の記述は、航海の記述に記す。
高航の記述は、航海の記述に記す。高航の記述は、航海の記述に記す。

高航の記述

高航の記述

高航の記述

航海記事

明治廿年二月廿四日午後四時四分横須賀港抜錨前進
 微速トナシ三時港外ニ出テ以テ半速トナシ須臾ニテ全速トシ觀
 音崎向テ三時五十分觀音崎ヲ右舷正横ニ見テ針
 路ヲ南微西ニ定メ四時十分葦鹿島ヲ右舷正横ニ見テ針
 路ヲ南西微南ニ變メ四時十分劔崎燈臺ニ並ビ針路ヲ
 南西ニ分メ西ニ變メ始メ横須賀港ヲ出ル前ヨリ北風強ク
 觀音崎ヲ出シテ艦ノ動搖甚シク七時廿分ニ至リ最モ甚
 シク斜度卅度ニ至リ且テ怒濤艦尾ヲ打ツ其時右舷后甲
 板ニ異常ノ響キアリ殆ド材木ヲ折ルカ如シ依リテ取テ檢査ニ機関
 長寢室ノビームノ舷側ニ倚リタル処ヨリ海水滴々侵入スル見ル
 之ニ誤リトシ故障ヲ生セシムル其後右舷側后部諸座
 ニ漏所多シ翌日上甲板兩舷后部コックタワーウエ山ノビームチ

五十二

海軍省

破裂シ動搖ニ後ヒテ離合スル見ル之前夜異響音片
 生セシラシ風雨鍼ハ常ニ三四ニ止リ寒暖計ハ五十八度
 ヲ六十度迄ニ昇降ス天候ハ最晴ナリ
 十時十五分神子元島燈火ヲ右舷正横ニ見テ針路ヲ西寄
 ノ南ニ変シ之ヲ風向北西ニ変シ風力稍弱ク和風トナリ
 風雨鍼下リテ三〇・三ノ至ス
 廿五日午前二時頃風力稍減少シ後テ風向北西ニ変ス
 三時五十分御前崎燈臺ニ並ビ七時頃ハ至輕風トナリ
 艦動搖最ニ少シ

正午 北緯三十四度十四分三十分
東經百三十七度五分五秒

午后零時五十分大王崎ニ並ビ針路ヲ南西ニ方一西トナス
 風向北西ニシテ和風トナリ帆ヲ展テ暫時ニシテ至輕
 風トナリ依テ帆直宣ム日没ノ時紫雲飛散九時極野崎

燈火並針路ヲ西微南四分一南ニ表シテ大沖高此時
 水天交際ニ黒雲起リ又黒雲知々飛散スルアリ
 且ツ風雨鍼非常ニ暴騰シテ三四五ニ至リ天候険悪
 模様アリ

廿六日午前三時ニ至リ益天候険悪トナル因テ針路北二
 分一西トナレ内海ニ向ヒ荒天ヲ避ク午前六時四十分針
 路北微西ニ分一西ニ表ス十一時日御寄ト並ビ針路ヲ
 北ニ表ス

正午

北緯三十三度五十八分三十分
 東経百三十四度五十分三十分

午後二時等々島燈台並針路ヲ北々東ニ分一東ニ表
 シ和甲岬ヲ向テ五時十分微速トナシ全廿分兵庫港
 左舷錨ヲ投ス